

「^い活きたお金」の使い方

和歌山県・和歌山市立貴志中学校 3年 瓜生田 彩月

私は今年、初めて「活きたお金」を使いました。その出来事は、ある1枚のポスターから始まりました。

6月の初め、よく利用している駅で「動物サポーター募集！」と書かれたポスターを見て、私の目は釘付けになりました。そこには、私が小さい頃によく行った動物園のことが書かれていました。詳しく見ると、クラウドファンディングが募集されていることが分かりました。クラウドファンディングとは、企業が不特定多数の人から資金を募ることです。集めたお金は、動物のエサ代や動物園の運営費用となることも書かれていました。私はこのポスターを見て、
(私も動物サポーターの一員になりたい！)

と強く思いました。大好きな動物達のエサとなるのなら。大好きな動物園に少しでも協力できるのなら……。高まる気持ちを抑え、私はじっくり考えました。募集コースは色々ありましたが、私が応募できるのはお小遣いで貯めた3,000円のコースでした。とはいえ、私にとって3,000円は大金です。こんな大金を使うことはめったにありませんし、使いたいと思う物もありませんでした。しかし、今回ばかりは違いました。私は動物サポーターになろうと心に決めました。早速家に帰って母に相談すると、母は、

「いいやん。そこまでやりたいんやったらやりなあよ。彩月がお金使うって珍しいなあ。でも、それってほんまに『活きたお金』やと思うで。」

と言いました。私は、はっとしました。これって「活きたお金」なんだ。そう気付いたから。「活きたお金」ってなんだろう。どうやって使えばそう言えるのだろう。私はずっと疑問でした。常に考えてはいるけれど、結局答えを見いだすことはできませんでした。しかし、私はやっとこの答えを見つけたのです。

1か月程たって、家に返礼品が届きました。返礼品は、動物園の入園券と缶バッジでした。そして、1枚の紙が付けられており、それには、

「この度はお申込みいただき誠にありがとうございます。今後とも〇〇公園をよろしくお願ひ申し上げます。」

と綴られていました。お礼を言いたいのは私の方なのに。満足な気持ちにさせてもらい、返礼品までくれるなんて。私は喜びと感謝の気持ちでいっぱいでした。ただの自己満足と言えるかもしれませんが、お金を払ってこんなに満ち足りた気分になるのは初めてでした。そして、今まで使ってきたお金の中で、一番有意義な使い方ができた気がしました。

夏休みもあと少し。私はもらった入園券を持って母と動物園を訪れました。中三になると忙しく、なかなか出かけることができないので、この日をずっと楽しみにしていました。動物園にいと、幼い頃の思い出がいくつも蘇^{よみがえ}ってきて、わくわくが止まりませんでした。檻^{おり}の中一つ一つ、その中にいる動物一体一体を見ていると、たくさんの驚きや感動がありました。高い所の木の葉を食べるキリン。華麗なジャンプで観客を魅了するイルカ。急な斜面を元気に駆け回るサル。どの動物も愛らしくて心が和みました。その他にも新たな発見がありました。動物の説明が詳しく載っているパネルや、動物のプロフィールをデジタルで確認することができるQRコードも設置されていました。動物園で過ごす時間は本当に楽しくて、あっという間に感じられました。また、この時間は今年の夏、最高の思い出になりました。

私が考える「活きたお金」とは、その後も後悔せず、使って良かったと思えるものです。私は母から、「お金は大切に使わなあかんで。」

そう言われて育ってきました。私はその言葉の意味を分かったつもりだったので、毎月もらうお小遣いもほとんど使わずに貯金していました。しかし、それはお金の大切さを理解できている訳ではなかったのです。貯金イコールお金を大切にすることではないからです。貯金をすることは重要ですが、むやみにするのではなく、この先どうするかを考える必要があったのです。また、欲しい物があったとしても行き当たりばったりで買うのではなく、真剣に考える必要があります。そして、自分が本当に必要だと感じた物に使うお金は「活きたお金」といえるのではないのでしょうか。

私は、これらの経験を通して、「活きたお金」を使うことはどれほど重要な

かがよく分かりました。私が出した3,000円は、動物園からすると1日分のエサ代にも到底及ばないでしょう。しかし、私にとっては本当に有意義な使い道に感じました。それは、私が「活きたお金」だと思ったからです。これからは、この先も生き続け、私の糧となる、そんなお金を使っていこうと思います。

